

ブラジル特報



あの町この町
カンピーナス Campinas



特集 ブラジル・ドイツ移民の潜在力

- ・ブラジルにおけるドイツ系の移民過程と言語・文化の継承
- ・南米最大のモルト製造工場を創設したドイツ系戦後移民
ハプスブルク帝国瓦解がもたらしたディアスポラの新天地



新規会員募集中!
詳しくは P21 をご覧ください。



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail info@nipo-brasil.org



世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。

鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。
たとえばサントス北西のティブラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

[Business innovation-2]

貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。

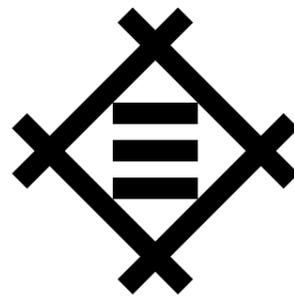
MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

[Business innovation-3]

現場のニーズに細やかに応える農業事業で、農業の発展を。

オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、気候条件に適した農業製剤を開発。作物の順調な生育を農業で支え、増産や品質向上に貢献。

世界の未来を、世界とつくる。三井物産



MITSUI & CO.

目次

あの町この町
カンピーナス [菊元 崇] 3

ブラジル・ナウ
ブラジルのドイツ移民プレゼンスを再考する
[「ブラジル特報」編集部] 5

【特集】ブラジル・ドイツ移民の潜在力
ブラジルにおけるドイツ系の
移民過程と言語・文化の継承 [山本 充] 6

【特集】ブラジル・ドイツ移民の潜在力
南米最大のモルト製造工場を創設したドイツ系戦後移民
ハブブルク帝国瓦解がもたらしたディアスポラの新天地
[「ブラジル特報」編集部] 8

人類 700 万年の歴史とブラジル先史人
[馬場悠男] 10

ブラジル現地報告
ブラジルの銀行事情を変える PIX と WhatsApp Pay
[仁尾帯刀] 12

連載・日系企業シリーズ
裏千家とブラジル 13

連載・ビジネス法務の肝
ブラジルにおける消費者保護に関する法律
[柏 健吾] 14

連載・税務の勘どころ
Carnê-Leão Web の運用開始
[カルロス・ホジェリオ・ボルゲス/三上智大/吉田幸司] 15

報告
カポエイラ+ファンキ+炭坑節
新フュージョン音楽を求めて [REI CAPOEIRAP] 16

ウーマン・アイ
色からわかるブラジル [河野さやか] 17

ジャーナリストの旅路
コロナ禍のマラカナン改名騒動 [淵上隆悠] 17

連載・文化評論
「ボメラニア語—ポルトガル語」辞典を巡って
ドイツ系移民史の一断面 [岸和田仁] 18

「花は咲く」特別報告
小野リサ歌唱「花は咲く～ポルトガル語編」を
翻訳者三浦マリエさんと味わう [矢玉奈津実] 19

新刊書紹介 20

連載・ブラジルあれこれ
BRASIL para principiantes(5)
-O País de Sessenta Milhões de Médicos- (後) 20

協会からのお知らせ 21



写真＝永武ひかる
「表紙のひとこと」

「リオの街角で一息。冷えたビールが赤い保冷筒に入ってきた。銘柄はボヘミア。19世紀にドイツ移民が作ったブラジル初のビール。その会社は合併吸収され、現在はラテンアメリカ最大のビールメーカー AmBev の一つのブランドになっている。」

永武ひかる：ブラジル撮影約 30 年、著作に写真絵本「世界のともだち 3 ブラジル」（備成社）等。
www.hikarunphoto.com

あの町、
この町

カンピーナス Campinas

カンピーナス市と聞いて、ああ、あの町ですね、と即答される方がどれくらいいらっしゃるのかわかりませんが、カンピーナス市は、南米最大の都市サンパウロから約 100km 北西に位置し、人口約 120 万人を擁するサンパウロ州で 3 番目に大きい都市である。標高約 700m に位置し、カレンダーの区分的には四季があるが、夏（12 月から 3 月）でも冬（6 月から 9 月）でも最高気温が 32、3 度まで上がる日もあれば、25 度に届かない日もあり、日によってばらつきがある。一日の中でも朝晩は涼しく、昼間は暑い日もあり、「一日の中で四季がある」と言われるほどである。



また、カンピーナスはポルトガル語で草地を意味し、もともとは多くの川に沿って、低地の植生に覆われたなだらかに起伏する丘が点在する土地であったが、その名の由来通り、現在でも高層ビルが立ち並ぶ市街地にはたくさんの木々が植えられており、緑豊かな町並みを保持している。そして、カンピーナスの市章と市旗には、神話上の鳥であるフェニックスが用いられているが、これは、黄熱病の大流行により、市民の約 3 割が死亡したが劇的な復興を見せ、「不死鳥の町」として知られるようになったことによる。

カンピーナスと日本の結びつきというところで行くと、「東山農場 (Fazenda Tozan do Brasil)」が挙げられるだろう。東山農場は、カンピーナス市街地から 10km ばかりの場所に、1927 年に創設され、広大な敷地でコーヒーを栽培するとともに、日本酒、醤油、みりんなどを製造しており、私もカンピーナス赴任中には市内のスーパーマーケットで、日本酒や醤油が購入できることにずいぶん助けられた記憶がある。2005 年に放映された NHK 放送 80 周年記念ドラマ「ハルとナツ」のセットにもなった場所であり、赴任中に 1 回しか見学できず、約 1 世紀前の雰囲気十分に思いを馳せることができなかったのは今となっては少し心残りでもある。



また、カンピーナス郊外には、州立カンピーナス大学 (UNICAMP) があり、同大学はブラジルを代表する南米でもトップクラスの名門校である。UNICAMP はキャンパスの敷地は広く、敷地内には病院、銀行、郵便局など生活に必要な設備が整っているのは、地図で見て何となくは認識していたが、入口の前を通ったときには、もちろん全容は見えないものの改めて一つの町のように感じたものである。



菊元 崇（協会理事）

39年間
南米一筋

驚き！
感動！！

魅惑のブラジルへの旅

ブラジルへのご旅行・出張は
創業 1979 年のアルファインテルにお任せください。

アルファインテルは南米系旅行会社で唯一の国際航空運送協会 (IATA) 公認代理店です。
航空会社との直取引につき、料金、座席確保に自信があります。

主要取扱航空会社：ユナイテッド航空、デルタ航空、アメリカン航空、ルフトハンザドイツ航空、エールフランス航空、イベリア航空、ブリティッシュ・エアウェイズ、ターキッシュエアラインズ、エミレーツ航空、カタール航空、アエロメヒコ航空、ラタム航空、ニュージーランド航空、アルゼンチン航空、ゴル航空、コパ航空、アヴィアンカ航空

アルファインテルはブラジル総領事館（東京、浜松、名古屋）の登録業者です。
観光や短期商用はもちろん、永住権取得や技術支援などの長期ビザもお任せください。

ご旅行・ご出張の際の現地のホテル、ガイド、車輛の手配も実績ある弊社にお任せください。

株式会社アルファインテル 観光庁長官登録旅行業 第1835号
社団法人日本旅行業協会正会員/OTOA正会員
(本社) 〒105-0003
東京都港区西新橋1-20-10 西新橋エクセルビル7階 TEL:03-5473-0541 FAX:03-5473-0540

アルファインテル



いいね!



e-mail: info@alfainter.co.jp



BRASIL NOW

ブラジル・ナウ

ブラジルのドイツ移民プレゼンスを再考する

かつて人類学者マヌエル・ディエグス・ジュニオール (1912-1991) は、一般向け著書『ブラジルにおける民族と文化』(初版 1952 年)の最終章「現代の人的・文化的景観」の結語部分で、「こうした現代ブラジルの多元的文化状況においては、異なった複数の文化価値の共存システムが形成された。(中略) すなわち、移民とともに伝来したヨーロッパ諸文化も非ヨーロッパ諸文化も、ブラジルの伝統文化 (より正確にいえば、ポルトガル・ブラジル文化と呼ばれるもの) を代表するグループと接触した時、対立的でなく平衡的な関係が確立され、今日我々がブラジル文化と呼ぶことができるものが生まれたのだ。このプロセスを進展させることに貢献した様々な要因のおかげで、ブラジルはエスニック的にも文化的にも多元主義を広く経験することが出来たのだ。」と述べたが、その前の節では「ドイツ系や日系グループは、今は政治問題となっているが、いずれブラジル化するだろう」という趣旨の文章が書かれている。

これは 1940 年代ナチスの排外主義を唱えるドイツ系集団が少なからず存在し、一方、日系は同一民族内で「カチ組マケ組抗争」を起こしていたからだ。この二つの民族グループは、1950 年代の段階では、まだ、ブラジル社会の“異端者”ないし“異分子”とみなされていたのだが、そんなドイツ系も日系も「いずれブラジル社会に適応し共存関係となるだろう」との人類学者ディエグスの冷静なる予言はまさに的中した。同書が刊行されてから 60 年以上が経過した現在、日系もドイツ系もイタリア系も共存・共生しているのがブラジル社会の日常的現実である。

という歴史的背景を再確認したところで、では、ブラジルにおけるドイツ系の人口はどのくらいいるのであろうか。

実は、ブラジル政府 (経済省) 系列の経済研究所 IPEA (応用経済研究所) が、なかなか面白い調査レポートを発表しているので、このデータをみてみよう。同研究所が 2016 年に行った調査は、4 千 7 百万人近くのブラジル人の名字を AI で分析するというものであったが、この分析の結果、ドイツ系と見なされたのは全体の 3.3% であった。このパーセントでブラジル全人口 (約 2.1 億人) から換算すると、およそ 7 百万人となる。これが、AI の推計人口数値である。

7 百万人もいれば、ブラジル社会の様々な分野で活躍するドイツ系の有名人が次から次と輩出することになるのは必然である。例えば、大統領。純血ドイツ系としてはエルネスト・ガイゼル元大統領 (在任: 1974-1979)、両親がドイツ移民一世でドイツ語を理解する軍人大統領だった。

混血ドイツ系ではフェルナンド・コロル元大統領 (在任: 1990-1992) は母方の祖父がドイツ系、さらにはイタマール・フランコ元大統領 (在任: 1992-1994) は父方の祖母がドイツ移民一世 (ハンブルグ出身) だ。

宗教 (カトリック) 関係では、元サンパウロ大司教のパウロ・エヴァリスト・アルンス神父 (1921-2016) はドイツ系二世。カトリック良心派として人権問題に取り組み軍政批判も厭わず、妹のジルダ・アルンス (1934-2010) は国際的な医療支援活動を展開、支援先のハイチの大地震で事故死したが、社会派兄妹は現在も尊敬されている。

芸能関係となると数限りないのだが、有名どころの 3 名のみ記すと、まず、元ミスブラジルの女優ヴェラ・フィッシャー (1953 ~)、次にタレント・TV 司会者として「子供たちのアイドル」となったシューシャ・メネゲル (1963 ~)、そして、世界で最も高給取りのファッションモデルとして米国で活躍中のジゼル・ブンチェン (1980 ~)。

次はヒトでなく産業事例を 1 社だけあげてみよう。産業界においてドイツの技術力を代表した例が、自動車大手フォルクスワーゲン (以下 VW 社) といっただろう。VW 社がブラジル法人を設立したのは 1953 年、当初は輸入販売から始まったが、ロックダウン方式の生産を経由して、1959 年には 100% 現地生産のブラジル国産「カプトムシ (ビートル)」第一号車が市場にお目見えした。ブラジルでは FUSCA というよりも愛称 FUSQUINHA (フスキーニャ) で知られるが、1959 年から始まってその後 20 年以上もブラジル市場で販売台数 No.1 のポジションをキープしたのだから、文字通りの「国民車」(Volks= 国民、Wagem= 車) としてブラジル国民に広く長く愛されたのであった。1980 年代前半まで、ブラジルの一般タクシーといえば、ほぼ 100% カプトムシだったから、この“見える化”パワーは甚大であった。

ドイツ移民第一陣がリオグランデ・ド・スールに到着したのが 1824 年であったから、この 200 年に及ぶドイツ系移民史の“成果”がブラジル社会のヒト・モノ・カネのあらゆる分野において顕在化しているといっても過言ではない。

すなわち、ドイツ系移民パワーもブラジルの社会や文化の多様化に貢献してきたのであり、これもまた多元文化国家ブラジルの魅力の一つである。

『ブラジル特報』編集部

ブラジルにおけるドイツ系の移民過程と言語・文化の継承



山本 充
(専修大学文学部)

移民に伴う ドイツ語・ドイツ文化の伝播

ヨーロッパにおいてドイツ語を用いているのは、いうまでもなくドイツとオーストリアの大部分であり、そしてスイスの3分の2の人々である。実はそれだけではなく、東ヨーロッパ、そしてイタリア北部において、その面的な広がり様々であるが、島状にドイツ語を話す地域が点在している。ある言語が卓越して分布する中において孤立して別の言語が位置しているところは言語島と呼ばれる。ヨーロッパにおけるドイツ語の言語島は、ドイツ人の移住の結果、生まれたものであり、言語島が形成された時代における彼らの故郷の言語や文化の諸要素がそこに伝えられ、現代まで維持されたり、あるいは変質したり、さらには消失してしまうこともあった。ある言語島には、ドイツのバイエルン地方の方言が聞かれる一方で、別の言語島ではザクセン地方の方言が聞かれたりする。

ブラジルにおけるドイツ系移民の分布する地域や集落もまた同様に、言語島としてみることができよう。ドイツ系といっても、彼らの故郷の地方ごとにドイツ語の方言があり文化も異なる。また、彼らがブラジルに移住として渡ってきた時代も様々であり、時代ごとにドイツ系移民の出身地だけではなく、職業や事情

など背景も異なるであろう。ブラジルにおいて、ドイツ語やドイツ文化はどのように伝えられ、そしてどのように維持、変質してきたのだろうか、ブラジルにおけるドイツ系の移民過程を追う中でみてみたい。

なお、ブラジルにおいては、1980年代末の時点で、ドイツ語話者の数は約160万人から360万人と見積もられていた。ヨーロッパ以外でアメリカに次いで、ブラジルではドイツ語話者が多く、国内では、ドイツ語はポルトガル語の次に話者の多い言語であるとみなされる。

ドイツからの移民の始まり： 多様なドイツ語・ドイツ文化

1817年、ハプスブルク家のレオポルディナ大公女とポルトガル皇太子ドン・ペドロがブラジルにおいて結婚したことが、ドイツ語圏の人々が、ブラジルに組織的に移住するきっかけとなった。彼女とともに、ドイツの芸術家や科学者、職人がブラジルに渡り、その翌年には、農民が北東部バイーア州に移住し、そこは、ブラジル初代皇后となる彼女にちなみレオポルディナと名付けられた。

1820年代になって、比較的温暖で、人口が希薄であった南部、特にリオグランデ・ド・スール州とサンタカタリーナ州に、ドイツ系の最初の大きな移民

日は「ドイツ移民の日」として祝われるようになる。その後、ドイツ系はリオ・グランデだけでなく、近隣の地域、とりわけ内陸にも進出していくことになる。

この時期におけるドイツ系移民の出身地は、主として南西ドイツのフンスリュック(現在のザールランド州北西部、ラインラント・プファルツ州西部)、シュバーベン、バイエルン、北東ドイツのポメラニア、北ドイツのウェストファリアであり、加えて、オーストリアやスイスまで広がっていた。とりわけ、南西ドイツからは独立農民や職人の家族が、主に北ドイツや北東ドイツからは下層農民や中流下層階級が移住したとされる。外からは同じドイツ系とみられはしたが、ドイツ帝国の建国は後の1871年であり、これらの人々の中には言語的にも、文化的にも大きな差異があったといえる。ドイツ系移民の方言は多様であり、フンスリュック語、ポメラニア語、低地ドイツ語などがあった。その後、他方言、他言語との接触を経て、リオグランデ・フンスリュック語が南部の主要なドイツ語方言になったという。さらには、ポルトガル語との接触と混合により、混成語 *misturado* ミストラードも生まれた。

ドイツ系移民は他集団との接触の少ない閉鎖的な集落で農業を営み、ドイツ語方言の言語島を形成していたとされる。そこでは、言語的同化も文化的同化も遅れた。彼らは自給自足の生活を送っていたし、当時ブラジルで行われていた奴隷制度を放棄したことで文化的孤立感を高めたとも考えられている。さらに、当時のドイツ系移民の多くがプロテスタントであったことは、現在もブラジルで支配的なカトリックとは相反するものであった。

特にドイツ人が設立したプロテスタントの集落では、イタリア人や日本人の移

の波が押し寄せる。その第一陣は1824年7月25日に到着し、ドイツ植民地サンレオポルドを拓いた。1924年以降、この7月25



◀パラナ州カストロのドイツ系集落における私設博物館の展示

とが目的であり、ドイツのお祭りが増やされ、そこには、ドイツ皇帝の誕生日に開催される「皇帝祭

においてドイツ語は保持されてきた。そこには、民族的というよりも宗教的・文化的な紐帯で結ばれたメノナイトの入植地も含まれる。

ドイツ「民族」への回帰： ドイツ語・ドイツ文化の復興

第2次大戦後、ドイツが経済復興を遂げて世界有数の経済大国となり、ドイツとブラジルの経済的関係はますます強化され、ブラジルの経済発展に寄与するようになった。世界におけるドイツの政治的、経済的地位の確立とともに、ドイツ系ブラジル人にとって、ドイツ系であることはもはや恥ではなく、ある種の「誇り」であろう。それは、1984年から開催されている南北アメリカで最大のドイツ系のイベントであるブルメナウのオクトバー・フェストを始めとした各地の催し物にもみてとれる。

そして、ブラジルからドイツへ、移民2世、3世が容易に訪問することができるようになり、自らのルーツを確認する機会も増えている。そうした中で、サッカー・ワールドカップにおいて、ブラジルではなくドイツを応援するドイツ系の若者も現れている。彼らのドイツ系としてのアイデンティティ確認の意図は、エスピリトサント州サンタマリア・デ・ジェティバのポメラニア移民博物館といった彼らの移民の歴史を辿る博物館の建設にも発現している。そして、こうした博物館は小さなドイツ系集落でも作られている。

このエスピリト・サント州やリオグランデ・ド・スール州などのいくつかの自治体では、ドイツ語が第2公用語とされている。また、リオグランデ・ド・スール州のノバ・ペトロポリスやサンタカタリーナ州のブルメナウなどでは、ドイツ語の授業が必修科目となっている。今や、ブラジルにおける標準的なドイツ語となったフンスリュック語は、ブラジルにおける言語遺産とみなされ、保護、普及が図られている。その正書法が定められ、ホームページやラジオ局も開設、出版物も刊行されており、ブラジルにおいて定着しつつある。

民に比べて、独立した学校制度が発達し、母国語で授業を受ける生徒が圧倒的に多かった。後の1890年にはブラジル人全体の80%がまだ非識字者だったのに対し、ドイツ系は約90%という識字率を達成していた。学校教育により、方言だけでなく、標準ドイツ語も継承されていったといえよう。ドイツ系の植民地は相対的に孤立していたにもかかわらず、独自の教育システムのおかげで、少なくとも南部では貧困や荒廃に陥ることはほとんどなく、肥沃な土壌は高収量の農業を可能にし、19世紀後半にはいくつかの集落が中心都市へと発展し、工業化の原動力となったとも評価されている。

ドイツ「国家」との結びつき： ドイツとブラジルの狭間で

ブラジル国家の移民政策が推進と制限の間を揺れ動く中で、1859年、ドイツではハイト法が公布されて、ブラジルへの移住が禁止されるが、1895年には南部3州に限り解除される。この間、1871年にドイツ帝国が成立する。ドイツ統一はブラジルのドイツ系移民の間でドイツへの愛国心を強めることになった。さらには、1880年代から1890年代初頭にかけて、移民を通してブラジルに新たなドイツを構築しようという民族主義的な考えが流布し、ドイツ移民に対する懐疑的な見方を広げた。

しかしながら、ドイツの工業化の進展とともに、経済的な動機から、すなわち、一次産品の輸入と工業製品の輸出の促進のために、ドイツ政府は、ドイツ系ブラジル人の組織を支援し始める。中にはドイツ語新聞への財政的支援もあり、それはドイツ系ブラジル人のドイツ人としてのアイデンティティを維持することを目したと評価できよう。また、各地のドイツ語学校にも民間を始めとして支援が行われた。やはり、ドイツらしさを保つこ

<参考文献>
Bernecker, W. L. and Fischer, T. 1992. Deutsche in Lateinamerika. In: Bade, K.J. (Hrsg.) *Deutsche im Ausland, Fremde in Deutschland: Migration in Geschichte und Gegenwart*. München: C.H. Beck, 197-214.
Bortnikova, J. 2016. *Ausarbeitung Hunsrückisch in Brasilien. Deutsche Vergangenheit in der brasilianischen Zukunft*. München: GRIN Verlag.
Fouquet, C. 1974. *Die deutsche Einwanderer und seine Nachkommen*. Instituto Hans Staden.
Leitzke, E. 2014. *Die Deutsche Einwanderung in Brasilien im 19. und 20. Jahrhundert. Das Leben der Einwanderer und deren Nachkommen in Südbrasilien: Pastor Faulhaber als Beispiel eines Werdegangs*. München: GRIN Verlag.
Rosenberg, P. 2018. Lateinamerika. In: Plewnia A. and Riehl, M.C. (Hrsg.) *Handbuch der deutschen Sprachminderheiten in Übersee*. Tübingen: Narr Francke Attempto Verlag, 195-264.



◀パラナ州カストロのドイツ系集落におけるドイツ文化の夕べ (Hubert 氏撮影)

南米最大のモルト製造工場を創設したドイツ系戦後移民 ハプスブルク帝国瓦解がもたらした ディアスポラの新天地

『ブラジル特報』編集部

世界のビール消費量ランキング

ビール好きには常識であるかもしれないが、国別ビール消費量ランキング(2019年)を改めて確認しておこう。①中国、②アメリカ、③ブラジル、④メキシコ、⑤ドイツ、⑥ロシア、⑦日本、となっており、一方、一人当たり消費量ランキングでは、①チェコ、②オーストリア、③ドイツ、④ルーマニア、⑤ポーランド、⑥アイルランド、となっている。

移民の里ともいえるサンタカタリーナ州ブルメナウ市でビール生産が始まったのは1856年、ミナスジェライス州ではジュイス・デ・フォアラで1861年にビール生産が開始されている。数年の差があるとはいえ、ほとんど同じ時期にビール生産が始まっており、いずれもドイツ移民一世が醸造・生産を手掛けたという点では共通である。その後大手資本によるビール事業が展開されることになるが、ブラジルのビール(資本・技術)は、ほとんどすべてがドイツ系といえる。

すなわち、ブラジルのビール生産の歴史はドイツ移民の歴史とほぼ重なり合っているのだ。ブラジルでうまいビールを飲めるようになったのはドイツ移民のおかげなのである。

もう一例をあげると、アマゾン(パラ州)で最もうまいビールといえば、「セルピーニャ」(Cerpinha)だ。1966年創業のCERPA(パラ・ビール会社)は、低温殺菌ドラフトビール工場を州都ベレン近郊に設立したが、このビールのうまさの「差別化要因」は、地表から100メートル以上も掘り下げた深井戸から取水した水量豊富な天然ミネラル水の活用、そして、ドイツ本国の最新醸造技術を導入、の二点であった。のど越しがよければ地元消費者は無意識のうちにセルピーニャを選ぶことになり(ベレンではブラマとかアンタルチカを注文するのはダサイことになっている!)、その結果、パラ州のビール市場のシェア70%という圧倒的人気を保持している。このビール事業を創業したのもドイツ移民一世である。こうしたブラジルにおけるビール産業を支えてきている関連

事業体の一つが、パラナ州内陸部に位置するブラジル最大のモルト工場である。

パラナ州グアラプアーヴァのドイツ系農協モルト製造工場

州都クリチバから西方向へ250kmほど入ったところに位置するのがグアラプアーヴァ市で同市中心部から南へ30kmほど移動するとアントレリオス地区に到着する。この地区を基盤とする「グアラプアーヴァ農業農産協同組合」は、栽培から加工まで複合的農業農産事業を展開する大手農協である。組合員農家の農地面積を合計すると15万ha以上となり、主な植付作物は、大豆、小麦、大麦、カラス麦などであるが、この農協は傘下に4つの農産加工工場を有している。その4工場とは、①大豆加工工場、②飼料工場、③製粉(小麦・トウモロコシ)工場、④Agromalte工場(モルト製造)、であるが、1978年に竣工したこのモルト製造工場の年間生産能力は10万トンからスタートして2016年の増設・追加投資の結果、35万トンとなった。これはラテンアメリカで最大のモルト工場であり、ブラジル国内のモルト市場全体の25%を供給している。ちなみに、モルトとは、大麦の種子を発芽させたもの=麦芽と同義であり、いうまでもなくビール醸造に不可欠の原料である。

このモルトは、最大手Ambevをはじめ複数のビール業者へ供給しているというから、ブラジルでビールを飲むと、知らず知らずのうちにAgromalte製造モルトをぐくりと飲み込んでいることになるわけだ。

この農産コングロマリットを築きあげたのが、戦後(1951年)極貧移民として



大豆畑

同地に入植したスアピオ人と呼ばれるドイツ系の人たちである。日本ではほとんど知られていない彼らの歴史について、要約的に追いかけてみよう。

スアピオ人とは

スアピオ人(英語 Danube Swabian、ポルトガル語 Suabio do Danubio、ドイツ語 Donauschwaben)の歴史を知るには、まず、中欧から東欧にかけてのヨーロッパの地理と歴史を復習する必要がある。中世から近世まで欧州の中心部を支配した神聖ローマ帝国は15世紀末以降、各領邦と自由都市の自主性に基づく連邦体制となっていったが、実質的な権力をハプスブルク家が掌握し、代々の皇帝を出し続けたことで、ハプスブルク帝国と俗称されるオーストリア=ハンガリー帝



パラナ州
グアラプアーヴァ市の位置

国に実質吸収されてしまう。18世紀に入ると、帝国領土内で当時僻地と見なされていたドナウ河中流域(現在のセルビア、クロアチア、ハンガリー、ルーマニア)に多くのドイツ南西部出身の農民を屯田兵の如く強制入植させたのである。彼らは200年以上に亘って農耕をベースとするドイツ系共同体を維持し、言語文化的にはドイツ語を母語とする伝統を綿々と保持していた。彼らをスアピオ人と呼ぶ。

スアピオ人の近代史 (難民収容所から北米やブラジル・パラナへ)

第1次世界大戦で敗退したオーストリア=ハンガリー帝国は崩壊し、いくつかの小国が誕生したため、スアピオ人たちが居住する地域は、ユーゴスラビア、ハン

ガリー、ルーマニアといくつもの国境で分断されることになるが、第2次世界大戦が起きるや、彼ら(男子)はドイツ軍に徴兵され、前線に送り込まれることになる。そしてドイツの敗戦にともなってソ連型社会主義国家体制が確立されていくにつれ、彼らはナチスドイツに協力した「売国奴」と決めつけられ、ドナウ河中流域から追い出されることになる。敗戦難民としてオーストリア収容所に逃げ込んだ彼らは、5年間から7年間ほど収容生活を余儀なくされるが、国際的な人道支援運動のおかげもあって、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ブラジル、アルゼンチンなどへ再移住することになる。

ブラジルの場合は、1951年から54年にかけて、総勢500家族(2,446名)がパラナ州政府が用意したグアラプアーヴァ郡アントレリオス地区内の5か所のコロニア(村)に入植したのである。5か所のうち4か所はカトリック向け、1か所がプロテスタント向けとなっており、総面積2.2万haと比較的恵まれた農地環境ではあったが、着の身着のままの極貧移民であった彼らのブラジル生活は厳しいものであった。彼らは、まず小麦、米、インゲン豆の耕作からスタートしたのであった。

1950年代は、内部対立もあって半数近くが脱耕してクリチバやサンパウロへ転住してしまっただが、残ったスアピオ人一世たちが力を合わせて協同組合を立ち上げ、1970年頃から経済基盤がしっかり確立されるようになった。1980年代以降はいくつもの農産加工工場も竣工し、とりわけ南米最大のモルト工場が農協全体をプラス成長させる中核となり、今日ではパラナ州でも優良農協の一つとして認知されている。ブラジルに根付いたドイツ系ディアスポラの成功事例として広く知られるようになっていく。

世代交代とドイツ語教育

今年2021年は、このスアピオ人入植70周年を記念する年である。70年も経過すれば、移民一世から二世、三世へと世代交代が進行中であり、彼らのアイデンティティ意識も変わってきている。社会学者による調査レポートによれば、彼らの複層的アイデンティティ変遷をざっくり

整理すると、一世の帰属意識は、ドイツ・オーストリアかセルビア(ないしクロアチアないしハンガリー)かの間で揺れ動き、二世のそれは、ブラジル人かスアピオ人かの間で悩み、三世になると、「自分はブラジル人であることに誇りを持つが、ドイツ系のルーツは忘れることはできない」という意識が平均的となっている。

日系社会における日本語学校のように、彼らも入植するやドイツ語学校を開校し、本国(ドイツ)から教師を招聘して子弟教育に力を注いできた。その結果二世も三世もバイリンガル(ポルトガル語&ドイツ語)に育ち、様々な分野で活躍するようになっていく。

ちなみに、経済的に余裕が出来て、海外旅行が出来るようになると、彼ら(移民一世&二世)がまず訪れたのはドイツないしオーストリアで、生まれ故郷のドナウ河中流域(セルビアないしクロアチア)ではなかった。これは彼らが地理的国民(ユーゴスラビア人ないしセルビア人)よりも「精神的」ドイツ人であるとのアイデンティティ意識を有しているからだ、と社会学者たちは解釈している。

田尻鉄也さん

このスアピオ移民の活躍を日本語で初めてレポートしたのが、サンパウロ人文研研究員や邦字誌『アグロナセンテ』編集主幹として活躍した田尻鉄也氏(1930~1998)であった。

サンパウロで発行されていた月刊『のうそん』1991年5月号に掲載された「グアラプアーバ高原のスアピオ人たち」という啓蒙的な文章は、「スアピオ人と呼ばれる、18世紀後半からドナウ河中下流域に強制入植させられたドイツ人の子孫たちが、1951年極貧移民としてパラナ州内陸部に移住したが、1970年代には大豆や麦芽(モルト)の栽培と加工で成功をおさめ、子弟教育(ドイツ語)でも成果を出している」という内容だ。このエッセイは当時の日系コロニアに実に大きな影響を与えたのだ。ドイツ系の戦後移民が農業部門で短期間に定着できたという事実、多くの日系人が衝撃を受けたからだ。

▲ブラジルの主要プレミアムビール「セルピーニャ」は一番左

つまり、ブラジルはビール消費大国として世界第三位なのである。これは、国土の大部分が熱帯・亜熱帯に位置するため、のどが渇けば、ガンガンに冷えたビールを飲みたくなる、という生理的欲求をもたらす物理的環境のおかげ、ともいえるが、「ちょっと一杯いこうか」という意味で、「Vamos tomar cervejinha!」と声かけ合う文化が熟成されてきたのがブラジルなのである。こうした「歴史的背景」の必然的結果としてビール飲み大国になった、と言ってよいだろう。

ブラジルにおける ビール生産の始まり

ブラジルにおいてビールの商業的生産が始まったのは、実は、ほぼ同時期の19世紀半ばである。1853年、リオデジャネイロ州ベトロポリスで最初の商業ビール「Bohemia」が創業されるが、ドイツ

グアラプアーヴァ農業農産協同組合
(製粉工場並びにモルト製造工場)



人類700万年の歴史とブラジル先史人



馬場悠男
(国立科学博物館名誉研究員・MAIKEN 副代表)

私たち人類は、約700万年前にアフリカで誕生し、徐々に人間らしい姿と能力を獲得して、世界中に拡散した。では、先史時代のブラジルに住んでいた人々は、いつ、どこからやってきたのだろうか。

森から草原へ

アフリカの森で暮らしていた初期猿人は、約400万年前には、新しい食物資源を求めて徐々に草原に進出し、猿人に進化した。その時に役立ったのは、二本の足で固い地面を歩く能力と、防御のために手で棒きれや石ころをしっかり握れる能力だった。ハイエナなどの捕食者に

伝いに広がっていった。東アジアでは、北京原人やジャワ原人になった(氷期には海面が下がり、ジャワはアジアと陸続きになった)。約70万年前には、アフリカで誕生した旧人の仲間が、ユーラシアに広がっていったが、海を越えることはできず、寒冷な地域では暮らせなかった。彼らは、ヨーロッパではネアンデルタール人に進化した。

サピエンスの誕生と世界拡散

約25万年前、またしてもアフリカで、新人のホモ・サピエンスが誕生した。彼らは、現代人と同じような想像力と創造力を持ち、5~6万年前にはアフリカからユーラシアに広がった。彼らは、進んだ狩猟技術を持ち、舟で狭い海を渡ることもできた。その結果、約4万年前には、先住の原人や旧人たちのすべて滅ぼしてしまった。なお、ネアンデルタール人やデニソワ人とは混血したことがあった。

アメリカ先史人は広い海を越えてやって来たのか

アメリカは、ユーラシアとは陸続きではない。したがって、サピエンスがアメリカにやってくるには、広い海を越える必要がある。では、具体的な証拠はあるのだろうか。

①メキシコのオルメカ文明で作られた巨大な石頭彫刻では、その広い鼻と厚い唇がアフリカ人と似ていることから、祖先はアフリカからやってきたといわれた。しかし、年代は約3000年前であり、当時のアフリカには遠洋航海の技術はなかったため、その可能性は否定される。

ブラジルのリオデジャネイロ近く、1万3000年前のスミドウロ公園で発見された人骨は、アフリカ人やオーストラリア先史人に近いとされた。しかし、似



ているのは、古いゆえの特徴が強調されたためだろう。なお、少女(Luzia)の顔を復元したら、アフリカ人と似ているとされたが、復元は主観的であって、アメリカ先史人と似ていても矛盾はない。いずれにせよ、アフリカからやってきた可能性はない。

②オセアニア人は遠洋航海の技術を発達させ、1000年以上前にイースター島やハワイ諸島に到達していたので、南アメリカにやってきた可能性があると考えられた。さらに、アメリカ原産のサツマイモが、1000年ほど前からニューギニアで栽培されていたことがわかった。ただし、アメリカ先史人にはオセアニア人と共通する遺伝特徴は発見されないため、多くのオセアニア人がアメリカに定着したことはなかったはずだ。つまり、オセアニア人のごく少数が南アメリカに到達して、サツマイモの種芋をもらって故郷に帰ったのだろう。

③ヨーロッパでは、2万年ほど前のソリュトレ文化で、洗練された石の槍先が作られていた。北アメリカでも、1万年ほど前のクローヴィス文化でよく似た槍先があったので、ソリュトレ文化をもった先史ヨーロッパ人が、大西洋北部を渡って北アメリカに到達したとも考えられた。しかし、2万年前の北太平洋は極

めて寒く、風雨が激しく、小舟で渡るとは不可能だった。実は、クローヴィス文化の槍先には、槍の柄にはめるための特殊な溝があり、ソリュトレ文化の槍先とは根本的に違っていた。なお、最初にアメリカにやってきたヨーロッパ人は、およそ1000年前にグリーンランドに到達したヴァイキングである。

アメリカ先史人は北東アジアからやってきた

以上の考察から、少なくとも1万年以上前のアメリカ先史人が、大西洋や太平洋を越えてアメリカにやってきた可能性はないと言える。

④そこで、残る可能性は、1.5~2万年ほど前の氷期に海面が下がって、シベリアとアラスカの間にあるベーリング海峡が陸地となった(ベーリング陸橋)ときにやってきたことである。ただし、そこはマイナス40度にもなる厳寒の地域で、暮らすのは極めて難しかった(今でも厳しい!)

実は、3~4万年前には、ユーラシアのサピエンスは、飛び道具による狩猟技術を発達させ、さらに動物の革を縫い合わせた密閉衣服を着るようになった(メドのある縫い針の発明!)。その結果、マイナス40度にもなるシベリアでトナカイやマンモスを狩って暮らすことができた。

彼らの一部は、およそ2万年前にはベーリング陸橋に拡大し、1万5000年ほど前には、北アメリカのアラスカに到達した。最初のアメリカ先史人が誕生したのだ。しかし、カナダのあたりは広い氷床が発達していて、南には拡大できなかった。やがて、1万4000年ほど前、氷床の一部が溶けて大地が現れ、先史人たちは南方に拡大することができたと推定されている。そして、チリのモンテ・ベルデ遺跡の年代(約1万3000~4000年前?)などから判断すると、極めて短時間で、南アメリカの南端にまで到達したらしい。

⑤実は、もともとサピエンスは、舟を使って水産資源を利用する技術があり、4万年以上前に東南アジアからオーストラリアに渡ったときにも、その技術を活用させたはずだ。そうすると、北アメリ

カの氷床が溶ける前に(たとえば1万5000年ほど前に)、太平洋北部の海岸を伝って、カヌーを使う漁労民あるいは海獣ハンターが北アメリカ西海岸に到達した可能性が考えられる。ただし、当時の海岸近くにあってであろう生活の痕跡は、その後の海面の上昇によって大部分が失われている。

最近では、現代人のDNA解析によって人類集団間の関係が研究されている。特にミトコンドリアDNAの変異を使ってアメリカ先史人の類縁性を調べたところ、北東アジア人と近縁なことがわかった。そこで、現在では、アメリカ先史人はアジア人の仲間であることに疑問の余地はない。

つまり、ブラジル先史人の祖先は、北東アジアからベーリング陸橋を渡って(あるいは、海岸を舟で移動して)、1万数千年前にアメリカに至り、さらにアメリカ大陸を南下してブラジルに到達したといえよう。

アメリカ先史人は、ユーラシアの人々とは全く交流のない状態で、農耕牧畜を發明し、文明を築いた。そのことは、アフリカから拡大したサピエンスが持っていた想像力と創造力がもたらした共通の結果と考えられている。

なお、MAIKENとゆかりの深いペトラ・フラダ遺跡では、3万年前といわれる木炭が出土しているが、野火による木炭と区別できない。また、石器といわれる石片も石灰岩の破片であり自然の破砕と区別できない。ただし、壁面に残る岩絵は見事であり、年代も古く、先史遺跡として保護が望まれる。

NPO法人 MAIKENの歴史(私の関わりも含めて)

1986年、在日の日系ブラジル人である井上アメリカは、ピアウイ州サン・ライムンド・ノナトのセーラ・ダ・カビヴァラ公園で遺跡の調査研究保護を目的とするニエド・ギドン博士の活動に共感し、その援助を始めた。井上は、1990年に、東京大学の大貫良夫教授を代表として南アメリカ大陸自然・文化遺産研究所(MAIKEN)を設立した。

MAIKENの活動目的は、セーラ・ダ・

①ブラジル、リオデジャネイロ北方のスミドウロ公園の洞窟から発見された1万3000年前?の女性頭骨。アフリカ的な顔をしていると言われた。実際は、古いアジア人的なアメリカ先住民だろう。



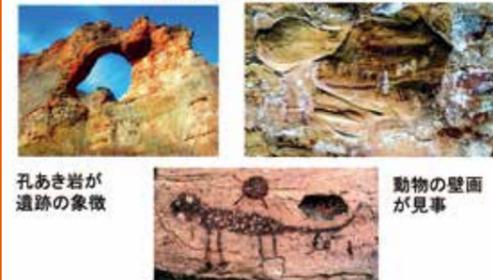
カビヴァラ公園内の遺跡保護と周辺住民の生活支援であり、現在も行っている。同時に、在日の日系ブラジル人たちへの支援が重要となった。それらは、実質的には、井上の個人的な努力に負うところが大きい。

1992年、MAIKENの一員だった馬場は、セーラ・ダ・カビヴァラ公園を訪れる機会を与えてもらった。ペトラ・フラダなどの遺跡には見事な壁画が残されていたが、残念ながら遺跡の年代が3万年前であるとの証拠は判然とはしなかった。その後、馬場はMAIKENの代表を務めることになったが、もともと、アジアにおける人類進化や日本人集団の形成史を専門としていて、アメリカ大陸および住民を直接の研究対象にはしていない。ご容赦いただきたい。

2008年、MAIKENはNPO法人として組織を固めたが、資金不足で、井上ほかの個人的寄付と、わずかの助成金や会費で賄っている。

2011年以降、現代表の三浦左千夫が、日系人医師・George H. Itoと共に、南米特有のシャーガス病感染者に対する調査と医学的対応を、在日ラテンアメリカ人の健康生活支援として、ブラジル総領事館内および全国のラテンアメリカコミュニティで継続的に行っている。

ペトラ・フラダ遺跡の年代は大議論。遺跡から見つかった木炭の放射性炭素年代は、3万年前とも言われるが、野火との区別が難しい。壁画は約1万年前らしい。



ブラジルの銀行事情を変える PIXとWhatsApp Pay



仁尾帯刀
(写真家)

オンライン決済の多様化

2020年6月現在でモバイル端末約4億2,400万台(内スマートフォン2億3,400万台)^{注1)}が使用されているブラジル。貧富や地域の格差が著しいため偏りはあるが、それでも10歳以上の国民の約74%がインターネットにアクセスし、そのうち99%がスマートフォンを保有し、58%がスマートフォンからのみインターネットにアクセスしている。

こうしたモバイル端末の普及を背景に、近年オンライン決済サービスが多様化している。本稿では昨年11月にブラジル中央銀行が発表した即時決済システム「PIX(ピックス)」と、今年3月末に解禁されたばかりの送金サービス「WhatsApp Pay」について紹介したい。

PIXとは

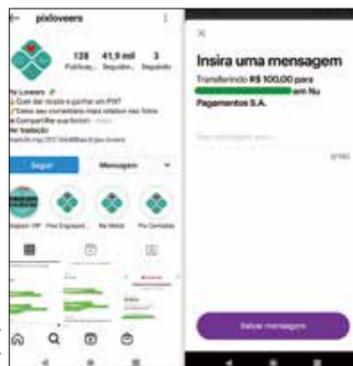
決済の簡素化と迅速化を目的にブラジル中央銀行が、昨年11月16日に運用を始めたPIXは、送金が瞬時に、手数料なし^{注2)}で行えることから2021年1月現在で、もはやブラジルの銀行口座間送金の79.9%を占めるようになった。従来の決済方法であるTEDやDOCでは即時に決済が行われず、金曜日のシステム稼働時間後に振り込んだ場合には、振込先での入金確認に翌週月曜日まで待たねばならなかった。また他行への振り込みには銀行各社が設定している決して安くはない送金手数料が送金元に課された。

PIXの大きな特徴の一つが、銀行口座に、携帯電話番号、Eメールアドレス、納税者番号、あるいは任意の名称などをPIXキー(chave do PIX)として紐付けできることだ。それにより、送金元は、送金先のPIXキーを使えば、銀行名、支店名、銀行口座番号、口座名という複数の情報を把握せずともオンラインでの送金が可能となった。

中銀もびっくり！ PIXの“クリエイティブ”な使い方

IT先進国の水準を鑑みた場合、PIXに特筆すべき革新性はないかもしれないが、この新システムが、男女の交際関係にも使われているのが面白い。多数の大手メディアが、これを中央銀行も想定していなかったブラジル人の“クリエイティブ”な使い方として紹介している。

PIXでは1センターボから手数料なしで送金できるのと合わせて、140文字以



左: PIXのコメントを紹介したInstagram
右: 銀行アプリのPIX振り込みページ例

内のメッセージを同時に送信できるのがポイントだ。

これを利用してデートアプリに自らのアピールとともにPIXキーを公開して、注目とともに投げ銭を集める者やSNSで遮断された元交際相手とのより返すなどの目的で、わずかなお金を添えてメッセージを送る者もいるのだそうだ。中央銀行が「PIXは決済手段であり、ソーシャルネットワークではありません」と警告を発したのは、想定外の使い方が無視できない件数あるからだろう。

ブラジル中央銀行は今後このPIXのサービスを拡大していく。今年5月には、従来、プライベートバンクなどが発行してきたボレット(バーコード付き支払伝票)に代わる「PIXコプランサ」を、来年上半年には分割払いや後払いを可能とするクレジット機能を付した「PIXガランチード」を導入する予定だ。

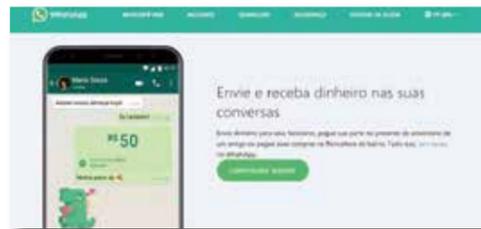
いよいよ解禁、手軽なWhatsApp Pay。大手銀行の今後はいかに？

PIX同様にブラジルの決済事情を大きく変えていきそうなのが、今年3月末に解禁されたばかりのWhatsApp Payだ。これは、ブラジルのスマートフォンの99%で利用されているチャットアプリWhatsAppが、チャット画面上での決済を可能とするもので、既にインドでサービスが開始されており、ブラジルでは一部のユーザーによる試験的利用が始まった。銀行アプリを開かずとも、支払いや送金ができるようになるので、一般に開放されれば瞬時に普及しそうだ。

こうしたオンライン・サービスの発展により、大手銀行は、経営のスリム化を迫られている。コンサルティング会社ローランド・ベルガーは、ブラジルの5大銀行^{注3)}は、今後3年以内に、支店の3割にあたる約5,000店を閉鎖しなければ、収益が保てず、投資家を失うことになるだろうと警告している。5大銀行のうちのブラデスコ、イタウ・ユニバンコ、サンタンデルは昨年、既に1,375店の支店を閉鎖した。

フィンテックの発展とデジタル銀行の登場が、支店を構える従来型の銀行を圧迫しているのだが、この度のパンデミックによりオンライン・サービスの利用者が急増したこともまた、より一層早い経営のスリム化を迫る要因となっている。

企業などの大口顧客にとっては事情が異なるだろうが、個人顧客には、スマートフォンで決済などの諸手続きが簡単に行えるのであれば、支店はもはや必要ない。むしろ、窓口対応で待たされることがないことが魅力的だとすら、オンライン化が進む昨今、思うのだ。



WhatsApp Payの紹介ページ

裏千家とブラジル

裏千家のあゆみ

わび茶を大成した千利休の死後、孫の千宗旦によって千家茶道の礎が築かれ、宗旦の四男仙叟宗室により裏千家が成立した。千利休から500年に亘る歴史のもとに裏千家は茶の湯の伝統と「和敬清寂」の精神を継承し、茶道の普及発展に努めてきた。幕末から明治の激動の時代に十一代家元として活躍した玄々斎は茶道の近代化に努め、外国人を迎えるための腰掛け式の立礼(点茶盤)を考案。その後も、歴代宗匠により女学校教育への茶道の導入や出版文化を通じての茶道普及が進められ、多くの人が茶道を学ぶようになった。

昭和15年には、裏千家茶道の基本的な点前作法を全国的に統一することと茶道修道者の質的向上を目的として「淡交会(たんこうかい)」が結成された。同24年、裏千家茶道及び裏千家の財産の保存を目的とする財団法人「今日庵(こんにちあん)」(現在は一般財団法人今日庵)が組織され、37年には、茶道教授者を育成する教育機関として裏千家茶道研修所(現在は裏千家学園茶道専門学校)が設置された。

淡交会

一般社団法人茶道裏千家淡交会は、今日では日本全国を17地区にエリア分けした中に、165支部・2支所が設置され、約10万人の会員を擁する団体として、我が国の文化の興隆発展に寄与すべく活動を展開している。茶道指導者育成のための講習会や講演会、茶会のほか、茶道を通じた地域社会への奉仕を行っている。また、淡交会にはそれぞれに青年部と学校茶道連絡協議会が設置され、若い茶道人の育成を推進している。ちなみに、学校における茶道活動の展開は幼稚園から大学まで7,000校を超える。さらに、国内のみならず世界37ヶ国・地域111ヶ所(2021年3月末現在)に海外出張所・協会が組織されている。

当代の十六代坐忘斎千宗室家元はこれまで以上に幅広い世代の方々茶の湯に触れる機会や学びやすい環境の整備に取り組むとともに、デジタル化社会に対応した諸施策を積極的に推進している。

海外への展開

生活習慣から各種の工芸、食を始め、建築、芸術、哲学などの学問領域をも包括する茶道は、国際社会における相互理解と人的交流にとって欠くべからざる存在である。



十五代家元の鵬雲斎千玄室大宗匠は、日本の敗戦による国土と人心の荒廃を目のあたりにしたことを契機に「一盃からピースフルネス」を提唱し、茶道の精神たる「和敬清寂」をもって平和の尊さを世界の人々に伝える行脚を続けている。

1951年、裏千家では初の海外組織となるハワイ支部の設立を嚆矢に、北米、中南米の主要都市に出張所と支部(現在は協会・同好会)を設立。その後も、ヨーロッパ諸国、オセアニア、アジア、アフリカと全世界に茶道の普及が進められた。また、ハワイや北京等多くの主要都市には裏千家が寄贈した茶室があり、日本文化と国際親善のシンボルとして活用されている。

茶道の学術的研究は日本のみならず世界各国で進められており、ハワイ大学をはじめ米国各地、中国、韓国、ヨーロッパ各国、南米等の大学で正課に取り入れられている。

また、裏千家茶道専門学校では外国人研修コース(みどり会)を設置し、多くの留学生を受け入れ、将来の茶道教授者のための研鑽の場としている。

ブラジルでの茶道普及

1954年、中南米諸国を訪れた千玄室大宗匠はブラジル、アルゼンチン、ペルー、メキシコに裏千家支部(現在の協会)を設立、中南米における茶道普及活動を開始した。同年は、サンパウロ市政400年にあたり、これを記念してイピラプエラ公園内に寄贈された「日本館」の開館式には、千玄室大宗匠(当時、千宗興若宗匠)と故人である実弟の納屋嘉治氏が出席し、茶道の点前が披露された。

1958年には、ブラジルの日本文化センターに茶室「伯栄庵(はくえいあん)」が寄贈され、以後、半世紀以上に亘りブラジルに於ける裏千家茶道の普及を担っている。1978年にはブラジル出張所を開所し、次の世代に茶道そして日本文化を伝えるために駐在講師を派遣。また、サンパウロ大学に茶道講座を開講した。

直近では2014年に裏千家茶道中南米布教60周年及びブラジル協会60周年を記念し、茶道裏千家淡交会中南米大会が開催され、日本、ヨーロッパ、中南米の各地から約400名の同門社中が参集し、親睦交流の機会を持った。

今日では中南米各協会はもとより、中南米各地域にて多くの同門社中が裏千家茶道を学んでいる。ブラジル出張所、ブラジル協会では茶道普及のために教育機関での茶道講座や日本祭り、桜まつりでの呈茶等を実施している。現在はコロナ禍によりこれまでのような活動を行うことは難しいが、このような状況への対応を模索しながら、日伯の人的・文化的交流を続けている。



茶道裏千家淡交会中南米大会にて

ブラジルにおける 消費者保護に関する法律



柏 健吾
(TMI 総合法律事務所日本法弁護士
現在ブラジルで勤務)

人口2億人以上を抱える巨大なマーケットであるブラジルには、日本の製造業者やサービス業者も多く進出している。製造業者やサービス業者にとって製造物責任や広告規制などの消費者を保護する法律は関心の高いテーマの一つである。そこで、本稿では、ブラジルの消費者保護法の主要な点を、日本の消費者保護法と比較しながら紹介する。

1. 消費者保護法

ブラジル憲法5条XXXII号に「国家は、法律の定めるところにより、消費者保護を促進する」との規定があり、それを受けて、消費者保護法(1990年法8078号)が消費者を保護する具体的な規定を設けている。ブラジル消費者保護法は、日本における、消費者契約法(契約の不当条項の無効や契約の取消などを規定)、特定商取引に関する法律(通称「特定商取引法」、クーリングオフなどを規定)、製造物責任法(欠陥商品に起因する損害賠償などを規定)、不当景品類及び不当表示防止法(通称「景品表示法」、偽装表示・誇大広告の禁止などを規定)をすべて含む法律である。

2. ブラジル及び日本における 消費者保護法の主要なポイント

(1) 保護される消費者の範囲

ブラジル、日本いずれにおいても、消費者保護法の目的は、情報量や交渉力に関して事業者より弱い立場にある消費者を保護することである。もっとも、保護される「消費者」の範囲は両国間で異なり、また、法律によっても異なる。

ブラジル	日本
商品・サービスを最終ユーザーとして利用する限り、法人も消費者に含まれる。ただし、購入者と事業者が「消費者と事業者」という関係がない場合は、通常の商取引として消費者保護法は適用されない	・消費者契約法及び特定商取引法で保護されるのは自然人のみである ・製造物責任法は法人も保護対象となる

(2) クーリングオフ

ブラジル	日本(特定商取引法)
7日以内であれば契約を取り消せる。日本と異なり通信販売もクーリングオフの対象になる(2013年政令7962号)	取引形態によって8日又は20日以内であれば契約を取り消せる。通信販売は対象外となっている

(3) 商品・サービスの欠陥に関する責任(日本の製造物責任)

商品やサービスの欠陥や不十分な使用上の警告に起因する損害を賠償する責任である。

ブラジル	日本(製造物責任法)
・動産・不動産だけではなくサービス(修理など)も対象となる ・製造、生産、建設及び輸入した者が責任を負い、例外的に、これらの製造者等が特定できない場合や製造者等を明確に表示していない場合は販売者も責任を負う。生鮮品の場合は、生産者を明示していない限り販売者が責任を負う。サービスの場合は、サービスの提供者が責任を負う ・事業者が欠陥を知らなくても責任を負う ・消滅時効は損害及び原因を知った時から5年	・動産のみが対象 ・製造、加工又は輸入した者が責任を負い、例外的に、自らを製造者等として表示した場合や実質的に製造者等と判断される者も責任を負う ・事業者が欠陥を知らなくても責任を負う ・消滅時効は損害及び賠償義務者を知った時から3年又は商品を受け取ってから10年

(4) 契約不適合責任(瑕疵担保責任)

商品の瑕疵、数量不足、契約内容との不一致等についての責任である。

ブラジル	日本(民法)
・消費者は代替品の提供、代金の返金又は減額を要求できる ・非耐久消費財の場合は30日以内、耐久消費財の場合は90日以内に請求する必要がある	・代替品の提供、代金の減額を要求できる(解除は民法の一般原則に従う) ・種類又は品質に関する契約不適合の場合、契約不適合を知った時から1年以内に通知する必要がある。数量又は権利に関する契約不適合の場合は期間制限はない(民法の一般原則に従う)

(5) 補修用品の保管期間

ブラジル	日本
生産者及び輸入者は、商品の生産や輸入を行っている期間及び商品の生産や輸入を終了した場合は終了後から合理的な期間、補修用品を保管する必要がある	法律上の規定はない(業界団体による自主的なガイドラインはある)

(6) 広告規制

ブラジル	日本(景品表示法)
誤解を招くような広告(品質や価格に誤解を与えるような広告など)や不正な広告(差別的な広告や恐怖や迷信を利用した広告など)は禁止される	不当な表示(優良誤認、有利誤認など)や過大な景品類の提供が禁止される

(7) 契約に関する規制

ブラジル	日本(消費者契約法)
・事業者の責任を軽減又は免責する規定(法人消費者の場合は責任を制限することは可能)、第三者に責任を移管する規定、消費者に不合理な不利益を与える規定などは無効 ・抱き合わせ販売の禁止、消費者の弱みや無知に乗じて商品を提供することの禁止など	・消費者は、不当な勧誘(重要事実について事実でない説明、不利益な事実を告げない説明等)により締結された契約を取り消せる ・事業者の責任を免責する規定、消費者の解除権を制限する規定などは無効 ・抱き合わせ販売等、独占禁止法で規制されているものもある

Carnê-Leão Web の運用開始



カルロス ホジェリオ
ボルゲス
(KPMG サンパウロ事務所
タックスダイレクター)



三上智大
(KPMG サンパウロ事務所
マネージャー)



吉田幸司
(KPMG サンパウロ
事務所パートナー)

月次申告 / 納税手続き

この所得については、「DARF」と呼ばれる納税伝票を通じて所得を得た翌月の最終営業日までに納税することになる。

なお、この「DARF」を作成するために、過去(2014年以前)はブラジル税務当局のウェブサイトアクセスし、ファイルをダウンロードする必要があり、また、システムを正常に動作させるためには、「DARF」の生成に対応した最新のJava仮想マシンをダウンロードする必要があったことから、煩雑な手順を踏む必要があった。

2014年になって、ブラジル税務当局は「Carnê-Leão」のアプリを使って、個人が月次税務申告できる制度をリリースした。これにより、納税者はコンピュータを使わなくても、AndroidまたはiOSのOSを搭載したタブレットやスマートフォンを使用して、その月に支払うべき税金の計算、申告ができるようになり、手続きの効率化が図られた。

そして、今年(2021年)になって、新たに「Carnê-Leão Web」がリリースされたことにより、従来必要としていた「Carnê-Leão」のプラットフォームやモバイルアプリケーションをダウンロードする必要がなくなり、毎月オンラインで月次納税計算、「DARF」の発行ができようになったため、従前と比較してより迅速、かつ簡易な手続きとなった。

なお、「Carnê-Leão Web」は2021年1月1日以降の月次の個人所得税の計算から利用可能となっているが、従前の方法のようにファイルをダウンロードして申告することもできる。

この「Carnê-Leão Web」には以下のようなデータが入力される。

▶基本データ

納税者番号(CPF)、氏名、労働者識別番号(NIT(PIS/PASEP))、扶養家族数、電話番号、勤務地といった基本データを入力することになる。なお、CPF及び氏名以外の基本データは変更可能である。

▶設定データ(コンフィグレーションデータ)

例えば、以下のような情報を設定する必要がある。

- 納税者が自営業者であるかどうか
- 海外からの収入や海外での支払の有無
- プログラムのテキスト表示形式の希望(短いバージョン or 長いバージョン)

なお、ブラジル税務当局によると、2021年の「Carnê-Leão Web」を通じて申告され、支払われた税金のデータは、納税者が2022年4月末までに行う2021年度年次納税申告書に転送される予定である。

このようにブラジル税務当局は手続きの効率化に向けての取組みは行っているが、それでもまだまだブラジルの納税の手続きは複雑であり、さらなる効率化が進められることを期待したい。

ブラジルでは全世界所得での申告が求められており、日本人駐在員が日本側でも給料を受取る場合、この給料についてもブラジルで申告対象となり、該当する駐在員は毎月、申告・納税をしていると思われる。この月次申告制度である「Carnê-Leão」の新たなシステム「Carnê-Leão Web」が2021年度から運用開始している。駐在員自らがシステムにアクセスして申告書を作成するケースは殆どないと思われるため、当該システムを利用したとしても駐在員の申告手続きの負荷に影響を与えることはないと思うが、ブラジル税務当局(Receita Federal do Brasil)の電子化、手続きの効率化に向けての取組みの一環であり、今回はその内容について説明したい。

国外で受取る所得に対する月次納税額の計算

2021年度において、月次の個人所得税の計算には以下の累進税率が適用されている。

2021年 / 月額個人所得税の累進課税テーブル		
月額課税所得(BRL)	税率(%)	所得控除額(BRL)
~ 1,903.98 まで	-	-
1,903.99 ~ 2,826.65	7.5%	142.80
2,826.66 ~ 3,751.05	15.0%	354.80
3,751.06 ~ 4,664.68	22.5%	636.13
4,664.68 超	27.5%	869.36

国外で受け取った所得については、ブラジル税務当局が使用するべき外国為替相場を決定しており、その計算は次の通りとなる。

1) USD以外の外国通貨(例えば日本円)からUSDへの換算

国外で受け取った所得はその受領日のその国が定める購入為替相場にてUSDへ換算

2) USDからブラジルレアル(BRL)への換算

所得を受領した日の前月の2週間目の最終営業日のブラジル中央銀行が設定した購入為替相場を用いてUSDからBRLに換算

例えば、2021年3月25日に日本で収入を得た場合、2021年3月25日の購入為替相場を使用して日本円からUSDへ換算を行い、その後、2021年2月15日の購入為替相場を使用して、USDをBRLに換算することになる。

なお、ブラジルと日本は二重課税防止条約を締結しているため、日本で得た所得に対して日本で源泉税を支払った場合、当該源泉税はブラジルの納税額から控除することができる。

カポエイラ + ファンキ + 炭坑節 新フュージョン音楽を求めて



REI CAPOEIRAP
(音楽プロデューサー)

カポエイラップ

ブラジル国民酒カイピリーニャはブラジルへのサウダージを優しく包んでくれる。飲めばたちまちブラジルのPraia(ビーチ)が目前に広がり、東の間のParaiso、といったところだろうか。

ライムの酸味、砂糖とカシャッサの三位一体。酸いも甘いも感じられるカイピリーニャはまるで人生のようだ。数年前にカイピリーニャを題材に楽曲「Caipirinha for your life」を制作した。カイピリーニャを嚙りながら人生を感じている。

ブラジルとの出会いは大学時代に始めたブラジル伝統格闘技カポエイラだった。リオデジャネイロにいる師匠(Mestre)にREIというアペリド(ニックネーム)を授かった。CAPOEIRAP(カポエイラップ)はカポエイラとRapをミックスした造語でヨーロッパ放浪時代に実際に作り始めた。

先日、在日ブラジルコミュニティ向け某フリーマガジンの電話インタビューを受け「ブラジルをテーマに音楽を作っている日本人」と紹介していただいたが、カイピリーニャ以外にはこれまでアサイー、パステル、リオデジャネイロ、ミナスジェライスその他、日本人ブラジル移民110周年を記念したオリジナル楽曲などがある。今はなき老舗の南米旅行専門の会社でブラジル査証代行をしていたサラリーマン時代、都内の自宅で作った楽曲「Saúde, Saudade」は100周年には間に合わなかったが10年後の2018年にサンパウロを再訪しアクションカメラを片手にリベルダージを歩き回り、沢山の日系人にお声をかけ貴重なお話とその歴史に触れた後に完成した。

現在はブラジルのFunk(ファンキ)と和を融合させた新しい音楽を作っている。

ファンキと盆踊り - Baile de Tokyo

世界的にはBaile Funk(バイリファンキ)と呼ばれるブラジルのファンキ。80年代の米国のマイアミベースが南下しリオのファヴェーラで生まれた。耳を塞ぎたくないような露骨で卑猥なリリックを歌うMCとDJによる荒々しいビートが特徴だ。そんなゲッター音楽がここ数年でさらに進化を遂げ新しい形で世界で展開している。ファヴェーラ出身の若きMC達やDJによって生成されるファンキに



Gringo(外国人)が入れる余地は到底無いものと長年思っていたが、通常の120~130程のBPMが150BPMまで加速されたFunk Acelerado(高速ファンキ)を初めて聴いた時、あらゆる音楽とクロスオーバーできるポテンシャルを感じた。そこで日本の伝統音楽、太鼓や笛などの祭囃子、盆踊りのリズムと混ぜ「和」やアジアを表現することに挑戦した。ミュージックビデオに開

しては無国籍で未来的な東京を表現したく6000万人以上の登録者数を誇るファンキ最大のYoutubeチャンネルKondZillaの関係者と連絡を取りながら話を進めた。拙いポルトガル語だが歌詞を書きサンパウロのファヴェーラでボーカルを録った。ダンサーや衣装、出演者もすべて自分たちでアレンジし、かくして「Baile de Tokyo」は制作された。「REI CAPOEIRAPは純日本人でミュージシャン、ブラジルを愛し感謝している」という一節を入れていたものの、結果としてはブラジル人らしい歯に衣着せぬコメントや評価もいただいた。型破りなことをされれば人は違和感を覚えるし、ましてや外国人が何のつもりだ、と想定内ではあったが誤解はされたくない。Eu Amo o Brasil(ブラジルを愛している)諦めないで続けていく。

夜中に酔っ払いのアウグスタ通りで偶然にも仲良くなった友人と2年後にまたブラジルで再会し、ミュージックビデオを制作するなんて夢にも思わなかったがとてもやり甲斐のある経験となった。友人には本当に感謝している。どうか今年もブラジルで会えるだろう。

俺のブラジリアン

コロナ禍のリハビリも兼ねてしばらく練習から離れていたカポエイラを再開、原点復帰。オンラインの可能性も広がっている。創作日本舞踊のエンタメ集団の右近屋と「炭坑節ファンキ」を制作。国内のサンバチームとプロコによるチャリティーライブ配信への参加。また音楽活動とは別に群馬県大泉町でYouTubeチャンネル「俺のブラジリアン」も始めた。皆さまそれぞれの「俺のブラジリアン」、「私のブラジリアン」が心にあると思う。若輩者の私が語る蘊蓄など戯言に聞こえるかも知れない。ただ日本社会で流されて悲観して生きていく同士を放っておけないしブラジルと出会えた我々にある滾る想いをどんな形にせよ声をかけ合い発信し素直にぶつけ合える日本人でありたいと願うと同時に社会に呼びかけたい。日本人に足りない「ブラ汁」というエッセンス。ブラジル人に教えてもらった謙虚さと感謝の気持ち。そしてジェイチーニョ(ブラジルの巧妙術)、人生の楽しみ方。精一杯の愛情表現とアミーゴ精神。こちらに愛があれば向こうも愛を返してくれる。優しさに甘えるばかりではなく愛は互いに育てていきたい。



ブラジルへの想いを音楽で作り続けていくライフワーク。この旅に終わりはない。Cheio de Amor(溢れる愛)..俺のブラジリアンへのDesafio(チャレンジ)は続く。



ウーマン・アイ

河野さやか
(建築カラーデザイナー/一級建築士)

色からわかるブラジル

サンパウロ市から飛行機で南へ1時間弱飛んだところに位置するのがパラナ州の州都、クリチバ市だ。ヨーロッパ系の国々と日本の移民を祖先に持つ人たちが多く住み、石畳が続く街の雰囲気は南ヨーロッパのような印象だ。気候は一年中さわやかで、食事モイタリア料理やそれに近いヨーロッパのものが多い。そんな街に4年近く住んでいた。

家族のクリチバ赴任が決まった時にインターネットで調べてみると、この街は都市計画が有名とあったり、世界的建築家オスカー・ニーマイヤーの名を冠した美術館があったりと、それまで建築の世界で仕事をしてきた私には興味をひかれる街であった。しかし実際に訪れてみると興味を引いたのは目に飛び込んでくる建物の外壁の色だった。それはブラジルでは珍しくないが、日本では経験したことのないような鮮やかで深い赤・青・黄といった色で、街の雰囲気との取り合わせが奇妙に感じられた。クリチバ市は標高900m超の地にあり、夏も涼しく、しかし1日の中では天気がとても変わりやすかった。そんな街の空の色の印象はほぼずっと曇り、つまり明暗はあれどもグレーであり、青く抜けるような空の印

象は強くはなかった。そこに真っ赤な住宅が存在する光景に違和感をもったのだ。

その後ブラジル国内を旅行して北部の街を数か所体験してわかったのは、気候が南部とは全く異なるということだ。降り注ぐ陽の光の強さ、空気の乾燥具合は別世界であった。ここではあの赤・青・黄の壁が美しい。オランダで様々な色ならぶ街並みを歩いたとき、マナウスで歴史的建物を見たとき、その外壁の色は空の色に映えていた。つまりこのカラフルな壁の建築スタイルはブラジルの伝統的な住宅建築スタイルとして全土に存在しているようだが、そこには気候の違いのために生まれた美的不調和が見られ、それこそブラジルという国の大きさを感じさせる現象なのだ。一方でブラジルのインテリア雑誌では全体的に赤みが強いコーディネートが好まれている。それは内陸部で見られる赤土の色に映える配色であり、空間にブラジルらしさを味付けしているこの色味もブラジルの生活文化がどこで発展してきたのかを教えているようである。ブラジルの街の色や空間の色が国の歴史や文化を語ってくる。まだまだ発見がありそうだ。

ジャーナリストの旅

コロナ禍のマラカナン改名騒動

淵上隆悠
(読売新聞リオデジャネイロ支局長)

ブラジルといえば、やっぱりサッカーだ。1994年ワールドカップ(W杯)米国大会での優勝は、まだ7歳だった私の記憶にも鮮明に残っている。ロマーリオが何度もゴールネットを揺らし、ペベットのゆりかごダンスも印象的だ。私が小中高とボールを蹴るのに夢中になったのは、間違いなくブラジルがきっかけだ。

そんなサッカーを巡り、リオデジャネイロでは3月、ちょっとした騒ぎがあった。聖地「マラカナン競技場」の改名騒動のことだ。サッカーファンでなくても、リオ五輪の閉会式で安倍前首相がリオに扮して登場した場所といえば、イメージがわくだろう。

マラカナンとは、競技場がある地区一帯の名前で、正式名称は「ジョルナリスタ・マリオ・フィーリョ」という。1920年代から約40年にわたり、ペンでブラジルサッカーの発展を支えたスポーツ記者の名だ。自国開催となった50年のW杯に向けて、「中心部に世界最大の競技場が必要だ」と紙面上でキャンペーンを展開し、世論や議会に影響を与えた。当初は別の正式名称があったが、フィーリョが他界した66年に改称された。

ところが、リオ州議会は3月、この名称を「エドソン・アランテス・ド・ナシメント=ヘイ・ペレ」とする法案

を賛成多数で可決した。世界で唯一、W杯で3度優勝した「サッカーの王様」ペレの本名だ。現在は州議会議員のベベットも賛成票を投じ、「史上最高の選手だったペレの名は、世界一偉大なマラカナンにふさわしい」と訴えた。フィーリョの名は、隣接の体育館などに残すとしている。

ペレはマラカナンで自身通算1000ゴール目を決め、71年には代表引退試合も迎えた。縁はあるが、現役時代を過ごしたのは、サンパウロのサントスだ。現役スポーツ記者たちは「もっとリオと関係の深い選手がいる」と訴え、ボタフォゴで活躍したガリンシャや、フラメンゴでプレーしたジーコの名を挙げる。フィーリョの孫も度々メディアに登場し、「祖父がいなければ、ペレがマラカナンでプレーすることはなかった」と強調した。

コラム執筆時点(3月29日)では、州知事は最終判断を下していないが、そもそもブラジルは新型コロナウイルスの感染拡大が深刻だ。3月23日、閉古鳥が鳴くマラカナンの前で水を売っていたクラウジオ・ダコスタさん(49)もこぼしていた。

「フィーリョもペレも偉大だよ。でも、今議論すべきは改名じゃなくて、俺の生活じゃないのか」

「ポメラニア語—ポルトガル語」辞典を巡って ドイツ系移民史の一断面

岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）

ブラジルでポメラニア語辞典？

2006年11月、ブラジルの主要紙誌の文化欄に、「地図上から消滅してしまった地域のドイツ語系言語の辞書がブラジルで刊行されたが、実に画期的な偉業だ」という趣旨の記事が掲載された。

それは、エスピリトサント州政府の支援を得て、「ポメラニア語—ポルトガル語辞典」が刊行（発行部数1,500部）され、収録語数は1万6千語で、イラスト図解付きの百科事典的要素も含む本格的な辞書であった、というものであった。ドイツ系移民といえば、サンタカタリーナ州（ブルメナウ市やポメローデ市）やリオグランデ・ド・スール州（グラマード市ほか）といった南部がよく知られているが、リオの北隣のエスピリトサント州にもドイツ系が多く居住しているとはブラジル国内でも認知度は高くなかったことから、この記事は意外感をもって読まれたのであった。

本誌今号でドイツ移民特集を組むことになった機会を捉え、この、ブラジルで生き残っているこの「絶滅危惧言語」をめぐる歴史的背景や現状について改めて調べてみた。いくつか関連資料に目を通したが、特にエスピリトサント連邦大学に最近（2010年）提出されたポメラニア移民関連の論文二本（教育学修士論文と社会心理学博士論文）から多くを学んだ。いずれも難解な論文だがドイツ系コロニアの内部をリサーチしたうえで書かれているため内容は実に説得的であったからだ。ドイツ近代史とブラジル近代史がぶつかったり、重なり合ったりした、という歴史的ファクトの一例としてポメラニア移民史のエスピリトサント州事例についてメモを重ねてみたい。

プロセイン（プロシア）とポメラニア

英語やポルトガル語ではポメラニア、ドイツ語ではポメルン、ポーランド語ではポモージェと呼ばれるが、現在はポーランド北西部のバルト海沿岸地方を指すが、かつてのプロセイン王国の一角を成す地方であった。18世紀初頭に成立したプロセイン（英語ではプロシア）王国が軍事力を拡大することで主導権を握ってドイツ統一を確立していくことになるが、農業に適した肥沃な土地がほとんどなく、経済的には低開発地域であったポメラニアからは、北米やブラジル、アルゼンチン、オーストラリアなどへ移民を送り出すことになる。

歴史と戦争に翻弄されたポメラニア地方は、第二次世界大戦後ポーランド領となり、そこに、ロシア領となった元ポーランド東部の住民が送り込まれることになる。一方、ドイツ系住民は追い払われて、縮小してしまった敗戦国ドイツに移住せざるをえなくなった。すなわち、ポメラニア語を母語とする人たちは四散し、

標準ドイツ語の世界に順応せざるをえなくなって、彼らの言語は「絶滅危惧種」とみなされるようになった。そうした「ポメラニア本国事情」からすれば、ブラジルのポメラニア移住地という「飛び地」にまだポメラニア語が綿々と維持されていることは「奇蹟」と思われたのである。

ポメラニア語とは

一般的な理解では、ドイツ語の一方言となるが、言語学者の説明によると、低地ドイツ語のファミリーに属し、地理的にスラブ系言語の影響も受けている。すなわち、言語学的には標準ドイツ語（高地ドイツ語）よりは、オランダ語のほうが近い。

エスピリトサント州への移民

ポメラニア地方からエスピリトサント州への移民が始まったのは1859年であったが、数千人（正確な数は不明）ものポメラニア移民が同州内陸部へ入植した。原生林を開拓しながら自給的農業に従事した彼らは、世代が下っても、キリスト教（プロテスタント・ルター派）に帰依した家族経営型農業を継続し、地理的にもブラジル社会からは隔離されていたため、ポメラニア語とドイツ語（牧師の言語）のみの言語環境が保持されてきた。現在は、野菜栽培やオリーブ栽培、コーヒー畑、ショウガ栽培や牧畜が主体となっている。

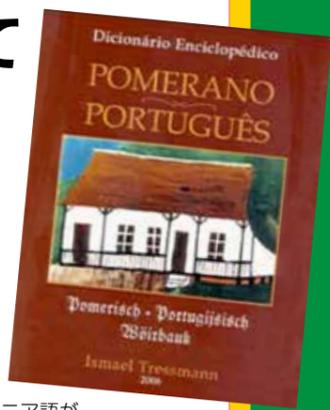
社会学者による2012年の調査によれば、ブラジル全国でポメラニア系ブラジル人の推定人口は約30万人、そのほぼ半分（13万とも15万とも）がエスピリトサント州で、あとはサンタカタリーナ州、リオグランデ・ド・スール州、ロンドニア州などとなっている。エスピリトサント州内のポメラニア系住民の多い郡（カッコ内はポメラニア系の占める割合）を列記すると、サンタマリア・デ・ジェチバ（80%）、ラランジャ・ダ・テーハ（70%）、アフォンソ・クラウジオ（60%）ドミンゴス・マルチンス（60%）などである。

変革期のポメラニア系コロニア

20世紀に入ってもブラジルの公教育制度に包摂されずにきたポメラニア系コロニアもここにきて変遷を余儀なくされ、若い世代は、ポルトガル語しか話せない者が増えて来た。全ての公立初等学校（小中学）では、週1回ポメラニア語の授業が行われ、地元FMでもポメラニア語音楽が毎週土曜に放送されるなど、様々なポメラニア語教育の試行錯誤が展開中の由だ。



サンタマリア・デ・ジェチバの市立小学校



▲ブラジルの国花「イヘー」。黄色のイヘーは春を知らせる花だ。

「花は咲く」
特別報告

小野リサ歌唱 「花は咲く～ポルトガル語編」を 翻訳者 三浦マリエさんと味わう



矢玉奈津実
（フリーランスライター・
サンビスタ）

「花は咲く」とは

NHK 東日本大震災復興支援ソングとして2012年3月に生まれた「花は咲く」。宮城県出身の映画監督・岩井俊二と同じく同県出身の作曲家・菅野よう子が手がけ、原曲は被災地に縁のある歌手、タレント、スポーツ選手によるリレー形式で歌われた。その後も、宮城県出身のフィギュアスケート選手・羽生結弦によるパフォーマンスやバチカンの聖歌隊の歌唱、リオデジャネイロ オリ・パラ日本人メダリストによる歌唱等、様々なバージョンが発表された。

そして震災から10年の今年2月、多言語版「花は咲く」が発表された。国内外のアーティストが、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語等11の言語で「花は咲く」を歌った。

歌として歌える翻訳の苦労

「花は咲く～ポルトガル語編」を歌ったのは、ボサノヴァ歌手・小野リサ。歌詞の翻訳は、NHK国際放送局のポルトガル語セクションに所属し、翻訳者兼アナウンサーとして活動、また当協会のポルトガル語講座で教鞭を執る日系ブラジル人の三浦マリエ氏による。

三浦「今までも授業の教材として、歌詞を翻訳することはありましたが、歌えるようにする翻訳は私も初めての挑戦。それらは全く別の作業でした」

最初は普段通りに翻訳。その後、歌の尺に合わせ、日本的過ぎる表現を見直し、メロディに合わない単語を再考し、韻の踏み所を考え、何度も何度も歌を口ずさんでは書き直したという。

三浦「例えば、1行目の歌詞 leves（軽い）は、当初 suaves（気持ちの良い）としていた。でもアクセントが強くてメロディに合わないと思って変更して…そんな作業の繰り返しでした」

印象的なサビの4行のうち2行半は日本語歌詞を忠実に訳

したが「わたしは何を残しただろう」をポルトガル語で「花は咲き、再びあなたの人生を覆うと約束する」と訳した。いわゆる意識だ。

三浦「それまで花のことを歌っていて、日本語歌詞通りに訳すとその世界が途切れてしまう感じがして。震災で生まれた歌だけど、なんとか聴く人に希望を届けたい、そう思いながら訳しました。ところで、亡くなった人の目線での歌詞というのはブラジルでは見たことがない。『千の風になって』もそうですが、これは日本特有の感覚かもしれませんね」

小野リサの実感と世界の反応

小野リサが歌うと決まったのは、三浦氏が翻訳を終えた後。小野とは元より親交が深かった彼女は、歌いにくかったら変えてもいいわよ、と声をかけたが、仕上がりは三浦氏の翻訳に忠実なものだった。柔らかなウイスパーヴォイスで「花は咲く」を歌い上げた小野リサからもコメントを頂戴した。

小野「ポルトガル語で歌うことによって、なんだかまた別の曲になったような…。想いが込められた訳詞だと思いました。三浦さん自身が自然に語っているよう。希望や前向きな心を、聴く人にも歌う私にも与えてくれます」

今年1月のコンサートで日本の観客には生の歌声を披露済み、評判も上々だ。

小野「今後もわたしのレパートリーになる1曲です。ブラジルの方にもぜひ聴かせたいですね」

NHK ワールド・ジャパンのSNSには、曲の発表以来、ポルトガル語での称賛も多く書き込まれている。東日本大震災の鎮魂歌「花は咲く」は、国境を超え、世界中の人の心を癒し励ます1曲となった。未聴の方はぜひYouTubeで検索して、その美しい歌声と歌詞の世界を味わって欲しい。



三浦マリエ

ブラジル・サンパウロ出身。日系ブラジル人。1982年来日。ポルトガル語・スペイン語の翻訳会社を経営。日本ブラジル中央協会のポルトガル語講座（上級コース）講師。



小野リサ

ブラジル・サンパウロ生まれ。ブラジル音楽家。10歳までの幼少期をブラジルで過ごす。1989年メジャーデビュー。日本におけるボサノヴァの第一人者の呼び声も高い。

コンサート情報

日●2021年7月9日(金)10(土)11(日)12(月)会場●ブルーノート東京（東京都港区）お問い合わせ●ブルーノート東京 03-5485-0088

新刊書紹介



◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

「カランヂル駅」 (ドラウジオ・ヴァレーラ著、伊藤秋仁訳)

1992年10月、南米最大のカランヂル刑務所で囚人たちの暴動が発生、その結果として100名以上が警察によって殺された。この事件をルポ風に叙述した原著は1999年のベストセラーとなり、バベンコ監督によって映画化もされた。作家・TVタレントとしても有名な著者はサンパウロ大学医学部を卒業し、医者として病院で働く一方刑務医としてこの刑務所の日常の実態を体験した。ブラジルの暗部だが、囚人たちのヒューマンな明るさが救いだ。(春風社 2021年3月 360頁 3,600円+税)

「星の時」 (クラリッセ・リスベクトル著、福嶋伸洋訳)

「ブラジルのヴァージニア・ウルフ」の遺作といえる中編小説がこなれた日

本語で読めることになった。ノルデスチ出身のタイピストがリオで米国文化(映画&コーラ&ホットドッグ)に憧れながら愛と幸福を求めて人生を歩んでいく。そんな彼女の内面を叙述する手法はリスベクトルならではのもの。2020年に生誕100周年を迎え、ブラジルばかりか英語圏でも再評価が著しいが、このユダヤ系作家による豊かな文学世界はもっと読まれるべきだ。(河出書房新社 2021年3月 186頁 2,450円+税)

「国際政治のなかの中南米史」 (渡邊利夫著)

「実体験を通じてリアリズムで読む」というサブタイトルが付いているが、中南米各国における外交現場での体験を重ねた外交官(レシフェ総領事、ボリビア大使など歴任)による、植民地期から現代までのラテンアメリカの通史である。ブラジル史についても著者史観による叙述が為されており、例えば1817年革命の先進性を説いている。終章「歴史と地理から見る中南米」は説得力ある歴史エッセイに仕上がっている。(彩流社 2021年3月 700頁 7,700円+税)

「超えていく人」(神里雄大著)

岸田國土戯曲賞を受賞した気鋭の劇作家・演出家による、南米の日系社会を訪ねた紀行エッセイ集である。著者自身のルーツ(リマに生まれ、沖縄系ペルー移民の家系)を再確認する旅でもあり、南米各国(ペルー、アルゼンチン、パラグアイ、ブラジル、ボリビア)の日系人たちとの交流を通じて日系世界の国境を越えた多彩さを再発見する旅にもなった。演出家らしく文体がリズムカルで読者を”日系世界史”の世界に呼び込む。(亜紀書房 2021年3月 312頁 1,800円+税)

「ラテンアメリカ文化事典」 (ラテンアメリカ文化事典編集委員会編)

17もの章のタイトルが、序説、文明・文化遺産、歴史、民族、移動する人々と現代ラテンアメリカ文化、生業、食と嗜好品、観光、宗教、言語とコミュニケーション、美術、音楽・映画、文学・思想、スポーツ、政治、経済、ラテンアメリカと日本、となっている。ラテンアメリカについての最新事典であるが、ブラジル食文化のコラムにはカランゲージョ(マングローブガニ)をヤシガニと誤記するなど初歩的ミスが見られるのは残念である。(丸善出版 2021年1月 780頁 20,000円+税)

!!「ブラジルあれこれ」!!

BRASIL para principiantes(5) - O País de Sessenta Milhões de Médicos - (後)

引き続き、ケルメン(Peter Kellemen)の著書“BRASIL para principiantes”から-O País de Sessenta Milhões de Médicos-と題する章の後半を紹介する。このタイトルは、「ブラジルは6000万人(1950年代当時の人口)全員が医者(の国)」という意味。ケルメンは、ブラジル国民は、みんな病気と薬について一家言を持っているので日々そのつもりでブラジル人と付き合うと良いと教えている。この章の後半では、前回書いたようなブラジル人の薬事情を踏まえ、ブラジル社会の中で外国人初心者がどううまく立ち振る舞っていったらよいかについてのケルメンのアドバイスがユーモラスに語られる。

「まず、不断から咳・のどの痛み用の薬、ビタミン錠など重大な副作用がなくドロップやガムのように渡せる薬を常に携帯しておくこと。また、友人が不調を訴えたら、骨折や歯痛以外は、『それは肝臓に達しない。』と言ってしまっただけで構わない。

皆がよくわかり、非常に不快な症状を伴う「風邪」によく効く薬(できれば注射薬)の名前も暗記しておこう。

特に必要なことは、知人が何らかの症状を口にした場合は、決して、「その症状なら△△通りで開業している信用のおける医者を知っている。」などと言ってはならない。そのようなコメントは、無関心の表れととられるからだ。そのような時には、その人が訴える症状をよく聞き、自分なりの診断を下したうえで、同様の症例を2例挙げ、どの薬が効くかをアドバイスしよう。

さらに、その人に今後とも長期にわたりお世話にならないといけないような場合は、「この症状は自分もなったことがある。」と明かしてその人に寄り添い、つらい経験を共有すること。その後上記のアドバイスを行う。それは、相手にとって、君がその人のことを真剣に心配しているとのサインになる。その上で、その人にはしっかり回復してもらわなければならないので、慎重に言葉を選びながら、その人ができるだけ早くかかりつけ医を受診するように仕向けること。

ブラジル人の売薬好きについては、ブラジル保健審議会(Conselho Nacional de Saude)はそのウェブサイト上で危機感を持って警告している。「ファルマシア(薬局)(farmácia)の『カウンター(balcão)』では、一般的な売薬に加え、避妊剤、抗生剤、抗炎症剤、鎮痛剤のような薬を適切な処方なしで買うことができる。このようにして販売される薬の量は増加傾向にあり全販売量の約半分に及ぶ。国民的「文化」であるセルフメディケーション(automedicação)をさらに加速し、重大な副作用をもたらす恐れがある極めて危険な行為。このようにブラジル人が薬をほかの一般的な商品と同じ感覚で購入するに至った背景として、国民の医療へのアクセスが十分でなく、そのことがブラジル人がセルフメディケーションに走る原因になっている。」(MK)



ベレン市内の薬局(写真提供:鎌田ローザ)

Churrascaria
Que Bom!
www.que-bom.com

Produzido pela
ATHLETA

LOJA ASAKUSA
TEL: 03-5826-1538
TOKYO-TO TAITO-KU
NISHI ASAKUSA 2-15-13 Nikkoshi B1F

LOJA SHIMBASHI
TEL: 03-6402-5685
TOKYO-TO MINATO-KU
SHIMBASHI 4-1-1 SHINTORA CORE 2F

日本ブラジル中央協会

お知らせ・講座のご案内

会員総会のお知らせ

以下により、2021年3月期の会員総会を実施すべく準備中です。

- 日時: 2021年6月17日(木) 11時~
(とすることで理事会で決議予定)
- 開催場所: 未定
(新型コロナウイルスが収束しない場合は、昨年同様、協会事務所で開催する可能性が高いと考えています。)
- 決議: 主に委任状による
(但し、事前に登録された方には、オンラインで参加し、説明、報告を聞けるようにすることを考えています。)

予定されている決議事項:

1. 2020年度の計算書類の承認
2. 2021年度の事業計画の承認
3. 役員を選任の承認

春期ポルトガル語講座について

4月5日に開講していますが、下記のコースは、期中からの中途受講が可能です。

- ◆初級Ⅰコース【金曜 16:30~】
- ◆初級Ⅰコース【金曜 19:00~】
- ◆初級Ⅱコース【水曜 19:00~】
- ◆中級コース【月曜 19:00~】
- ◆上級コース【木曜 16:30~】

詳細、お申し込みは、<https://nipo-brasil.org/portugal/>

法人・個人・学生

皆様のご入会を心よりお待ちしております

新規会員募集中

会員数 法人会員 110社
(2021年4月現在) 個人会員 約500名

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会員特典

1. 協会会報「ブラジル特報」の無料配布
隔月発行、年6回配布。
2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に、参加できます(会員限定イベントへも参加いただけます)
3. 会員交流懇親会へ参加いただけます
4. ホームページにて、会員限定情報をご覧いただけます

年会費

法人会員 1口 20,000円 / 個人会員 1口 10,000円
(2口以上) (1口以上)

※入会金は不要です

お申し込み



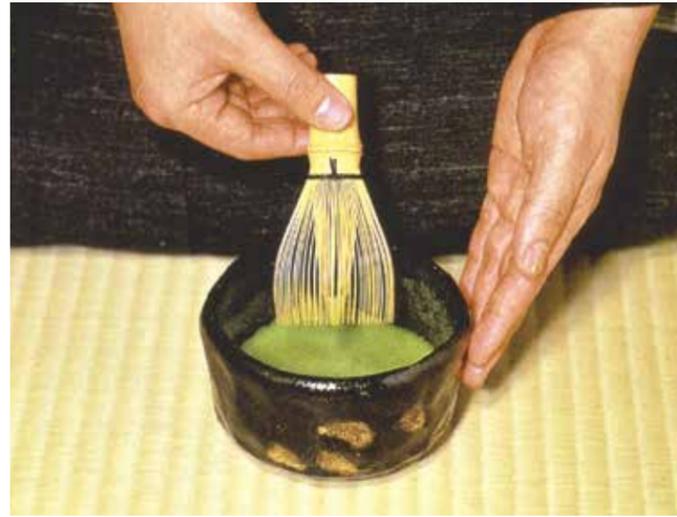
《日本ブラジル中央協会公式HP》
<https://www.nipo-brasil.org>

日本ブラジル中央協会 検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。



一盃から
ピースフルネスを



茶道裏千家 HP: www.urasenke.or.jp



裏千家ブラジル出張所 HP: www.chadourasenke.org.br



ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を

ブラジルでビジネスや生活をする上で
欠かせないのがポルトガル語です。
BrAsia(ブレイジア)では、
赴任前と赴任後の語学研修を提供します。
「講師任せにはしない」
現地に精通したスタッフが進捗を管理します。



BrAsia (ブレイジア) 運営: 株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階
TEL03-6263-0716
お問い合わせは E-mail: brasia@kanwajuku.com HP: <http://brasia-j.com/>

200年以上の歴史を有するブラジル銀行は、
1972年の東京支店開設来、さまざまな金融
ソリューションを提供してまいりました。
日本とブラジルの間でビジネスを行うお客様
のお役に立ちたいと考えております。
お気軽にお問い合わせください。



ブラジル銀行

bb.com.br/japan/jp

※詳しくは弊行のウェブサイトをご覧ください。



セレモアグループは、シニア世代とそこそご家族の
安心で豊かな暮らしをサポートする企業グループです。

24時間
365日受付

ご相談サポートデスク

☎ 0120-60-1121

資料請求

詳しい資料の他、セレモアのエンディングノート
「私の記録ノート」をお送りいたします。



セレモア 検索



◆品質保証の国際規格 ISO9001 認証 (葬祭サービス)
— 人の心 日本文化を守る —
■東京紀尾井町本社 / 東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル6F ☎ 03 (3556) 1111 (大代表)
■新宿本社 / 東京都新宿区四谷4-19-7 ☎ 03 (5379) 0111 (大代表)
■立川総本社 ■八王子本社 ■相模原本社 ■埼玉本社 ■所沢本社



担当: 田村 一浩
携帯: 080-2051-6561

どのような事でも
どうぞお気軽に
お申し付けください



American Airlines 



より便利に、ブラジルへ

日本航空との共同事業により、両社のフライトを組み合わせた自由なプランをお楽しみいただけます。中南米、特にブラジルへは、ダラス・フォートワースからの乗り継ぎが大変便利です。安心・安全な旅のため、様々な取り組みを行っております。詳しくは、aa.comへ。

